八紘義名所圖會

六

070
45
2911

H2

八江萩名所圖画六之巻

目録冬之部完

廣厳寺　同圖　諏訪明神社　同圖　松本大橋　同図
扇の芝　明安寺　下津江落雁　同画　長慶寺　城ヶ腰
船津　松本鮮物司園　鶴江夕照園　阿胡海　加利島
音聲寺　同圖　神明社　荒神社　菊江夕照　千本松
香川津弁天社　小畑　茶碗屋園　雅樂殿川　同圖
疫神祭祀　白山権現社　同図　勝屋権現舊地　妙見社
永照寺　観音堂　同画　越濱明神社　同圖

已上目録参拾八條

八江録名所圖画六之巻

木梨恒充　著述
山縣寛厳　補画

冬之部

華園山廣厳禪寺　松本上市一里塚の所にあり

古所を花園の市と云ふ

天台宗の禪刹にして本尊釈迦如来八行基菩薩の作中興を一天大佐和尚と号す舊古人皇百二代後花園院の御代永享年間の草創にて花園山安養寺と勅額を賜りし古刹なりと云其後荒廃し慶長の中比再建し今の寺号に改む猶改宗の辺須海潮寺に属す

藥師堂　本堂の前方にあり本尊藥師像弘法大師天平年中の建立
なりと云ひ傳へ八畳ばかりの地にあり一宇を建立す

諏訪大明神社　同所市の中程山の半にありて二丁餘
石壇を上る當社は天正年間吉見大藏大輔正頼再
興せる所にして其創始詳かならざれ初め社地松本諏
訪谷に在り後て今猶此名を称す後寶永年中今の
所へ移し奉る

傳に曰往昔欽明帝三十年正月長州阿武郡椿郷の
海に魚あり夜々光義ありて四方を照す陰陽頭ト
部兼之を占ふて神の奇瑞なりと云ふ其頃此

郷の民屋二十才の女子狂顛の如くして詈り以て我が
信州諏訪の神靈なり此地名木多りれと我無跡にして
長く國民を撫育せんといひて即て醉のごとくもみ疾
平癒しこれ郡司此事を聞て大きに感歎し即て
一業祠を建て諏訪大明神と崇め尊ぶなりと

松木大橋 同所中島より扇の足に架す長三十六間
課稅橋なりと云ふ六々橋なりと呼へり元禄十六年初て是
を架す初めはきしの反もなりしといへり 川筋ハ
裾奈川に同し川上太甲灣より分派して中津江に

松本大橋
上橋
下橋

松本といふより雁島をへ鶴江より海に入るをへて松本川といへり

扇の芝　扇形なるを以て号とす眺望ひろく平原にして数千歩の淺草生ひ殊更彌生の空代青陽なる比もすゑつゝれつゝ咲てけハ野をなかめしに袖ぬれはへて行歸りをしめ子も多りなりをもと夏ハ川上にうしに暑をしのぶんとて貴と賤とをかく老ひも若きも夕つゝ比より袖を連ねて羣集引も切らず実に両季の眺望なりとゝも尤納涼のしるべ勝ちなる

東谷山明安寺　同所下市にあり一向宗にて厚狭郡吉部常光寺に倣ひ本尊ハ阿彌陀如来にして開山を釋道甫と云相傳ふ慶長のころ関東の浪人林筑後と云ひしかの石州津和野村にて學問の師範とし竟に吉見廣行に為して別島作兵衛と号し一家の幸臣なり後吉見家没落せしより終に法花宗に帰りしかち難敵にて道甫と号し一字の精舎をいとなみて長吉宗を学ぶ其以降阿武郡福井村に迁

春貞
下津江落照
吉圓

根雁秋高
俳来沿
一行水氣
陰天明
河流鼠
渡来去
不耐衆江
百里情
原敬

りて一向宗に改むつひに承應のころ寺領二十地
を賜ふて本堂を建立せりといふ

下津江落雁　八重嶽八勝の一にして風光さながら画
図に異ならず

旅雁秋高停未征一行水氣拍天晴問渠緣底
遽来去不耐寒江萬里情　原欽

きりの入江のまれにかくとわらるもうつるたよりあるかな　春貞

吉祥山長慶寺　宇田川原にあり黄檗派の禪宗にして
東光寺に勝れ本尊に聖觀音を安して開山は明宗

元興和尚といふ相傳ふ始大島郡屋代邑にありて長
慶養といひしを正德元年唐樋町々人中村源兵衛
といふるもの開基せしものなりといふ

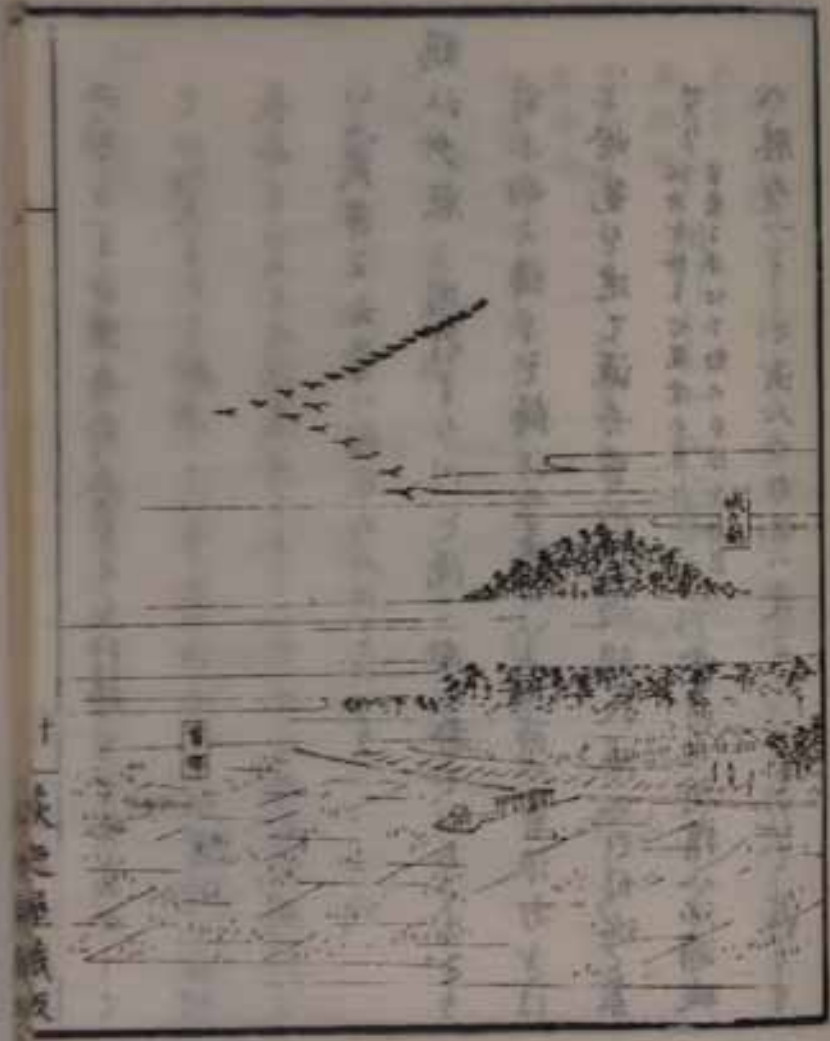
城ヶ腰舊蹟　同所の上代山といふむかし尼子の家臣松
倉伊賀守の城跡なりと土民のいひ傳へる所なり　今案

[illegible]

船津　中島新道より人家にいる処を今も船津といふ之
往古は此あたりまでその沼田にして濱口よりの船通ふ

松本河原
鋳物師

城ヶ腰山
長慶寺



所なりまた漁舟荷舟なども行歸りて繁昌せしと
そいふなりされど船津といふ号をつけしなん當所は松村
長介といふもの住居せしとして今も猶松村用作と
いふ武書に云昔は湖水の入口といひて
鶴江夕照　同所より川を隔て南は都て此あたりより
前小姫に續くを鶴江の臺といふ又西の鼻浪打ぎは
に燈籠を建て漁舟賈船風雨晴夜湊入の目途とす
なり　此才と称する灯籠堂の弁財は入りて
當國に來始れる如の石像を安置す　當所は所謂八江潮城
八勝の一にて出入の白帆は霞に見えかくれて波にも

歌き舞くさ海士小舟の沖に連なりて廻夜の明るを
待つ　網引する小船は霧中往帰して朝しるくはい
ふ降るに〳〵白雪は島山に雲のかゝるに疑られて實
に四時の風光なりされば画中に琴歌なり
一斜陽直照柳　一半鶴江紅
島影長張水　寒潮海連空　原欽
時の〳〵人は月村門松長に移るなりの花をさかけを春久
遊の上人の國造にのぞむ當所にしるる　清水九郎　其所
代なれどもかゝるねぶの友名の人は門松を見るをすも

鶴江夕照

古圖

斜陽至
照網
一半霞
江紅
島影奏
浪水
寒潮湧
遠空

原歌

霧の
入江の
村がれ
跡つ
けの
とも
春夏

安武城東北巍々江上臺隔街塵界遠
觀世佛堂閑
長海連三越高陵望九域松風飄鶴翼
將有羽人來
山根南溟

阿胡海　當地たしかれる所をしらしは幽齋丹後日記にハ
小畑より瀬戸崎の間に阿古の浦といふる所ありて萩
田らも云千代に羽をのす鶴の江乃太しく立し宮柱
内外の神の隔なく和光のかけのあきらけき秋城掃
護ましませり阿胡の海つらまんくと岸うつ浪や青

岸寺云々と見ゆ又阿胡海ハ今當郡本古村の海を
いふと防長名所雜記にも乃せたり實所たしかならねと
ち古より詠し來れる所なれバ爰にしるしつ
幽齋日記にも此うたあり阿胡の海とあるへきハ
小つのかよふまゐるへきもあまたありなん阿胡の浦の清浪　阿胡
八雲御抄
時は風ふくに　あこの海の沖はかくなる深川のもれ
万葉十三
處女等之麻笥垂有續麻成長門之浦丹朝奈祇尓
滿來塩之夕奈祇尓依來浪乃彼塩乃伊夜益外二

被浪乃伊良數布二吾妹子爲經千本有阿胡之
海之荒磯之於二濱菜採海部處女等數有領巾
文光蟹手二巻流玉毛湯良雖尓白栲乃袖振所
見津柏思羅霜
阿胡乃海之荒磯之上之小浪吾戀者息時毛無
安古乃宇良尓布奈能里須良牟乎妻乃良根安
可毛乃須素尓之保美都良武賀
防長名所雜記
阿胡浦海人雲御抄云浦あとの長乃海あとの長乃

あとの長乃 阿胡ハ名高藻塩草等の諸抄ニ同し長門
浦ニ引續て北の方ニ位る浦の村家を阿胡村と云
國中ニハ奈古と称へり藻塩草ニ曰あとの浦と
云もあとの海ニおなしことあり

春渺阿胡海 華鮮水脉匯鯨噴千里浪
鵬擊一天飆
蒲璃長相接 金森尚未改 古來入國風
已使聚人采

南英

加利島　加利嶋ハ鶴江臺をいふとぞいへり又三島舩或
ハ江崎の沖中にある小島なりといふ或人曰今松本河
原より千本松邊までの間をハ雁嶋といへりと是ハか
てしまを誤りてかんぎ海といふなるへし是又奇説と
すへし

防長名所雑記
加利島ハ俗にかれ島と云り江崎といふ沖にありこれより石
見の海に續く所なりと云と

舟城日記古香法印細川幽齋
とかくして長門の國にいたり磯のうへあるくを足のうら

して行にかゝしはといふところあるとききしたれも世の
無常なることをおもひ出て
みな人の命なりとも消のこる世ハかゝる島の浪のよるかた　幽齋

藻塩草
長門なる沖はかるしま海おくまへて我のへをいかさせまうを

鶴江山常念佛音浄寺　同所並川に於てあり按
多羅院と号す鎮西派の浄土にして常念寺に属す
開山ハ念蓮社深誉寄雲和尚といふ寛文九年の草
創にして校五山の一なり

鶴江

音賀寺

念佛堂　本尊阿彌陀如來ハ佛工安阿彌の作脇士二十五菩薩ハ佛師宗印の作ゝ所ゝ相傳ハ始善芳院とゝ〳〵ゝゝ破却ゝおよびて後當所へ再建――今の考ゝ改むまゝ當所ハ御城の鬼門の地とゝて鬼魅守護の念佛場とゝて當寺を建置給へゝゝゝ

本堂の額ハ佐々木玄龍の書ゝる所ゝゝ

念佛堂制札左ゝ――ゝ

形は山ゝゝ　ゝゝ　ゝ仏

[illegible]

觀音堂　本堂の左ゝゝゝ本尊の觀音聖徳太子御作脇士菩薩如來子安觀音の二尊ハ和泉の作ゝゝ又當堂ハ七觀音の一ゝ――ゝ第六番目

神明社　同所東ゝ有り石壇三四丁を登ゝ

祭神　天照皇太神　豐受皇太神　大歲神

縁起ゝ曰むゝ――此境ハ陰晴の地ゝ――ゝて氣候順ゝゝゝ

あるゝ上ゝ淡賊動もすれハ當所ゝ看船して人をあや
まち傷ふことをくいなゝ悪ひへき事ゝりし城神や
所くれミ所ひぐん延長年中のことなりしゝ御神降臨
しゝひして此地を守護ゝくしゝと昔玉ひぬ云ゝ今の三社
是ゝあり

荒神社　同所ゝり二丁程東ゝあり當社ハ秋荒神
四宮の一ゝあり古老物語ゝ曰當社ハ阿武郡中第一
の古跡ゝして四方の荒神是ゝり分神ゝ所ゝゝ
菊江夕照　いゝしへ當所を殺八景の一とゝゝり

千本松　同所臺の下瓜島ゝ出ゝ所ゝあり昔ハ都て大
沼の入江ゝりしゝ貞享年中御開作の時數百本の松
樹を栽おかれしゝとゝ世俗号て千本松ゝくゝふゝれ田
圃の為ゝして西北の潮ふきはゝ風のまを障ゝん設
けゝりゝゝ

香川津辨天社　同所ゝり東北香川津村ゝあり側ゝ
小畑村二孝子の石碑あり二孝子の事ハ世俗の人
口ゝ殘りてその名高しゝりて記さん

小畑　當所ハ古へ驛舍ゝして三位村往来人馬の往場

小畑
茶碗屋

うり元ハ埴田といふり後ゝ改めて小畑ゝすれ産の瓜ハ味ひ美ゝて上品とす又當地ハ土の佳き所ゝて埴田ゝいふも是より出るゝ故ゝいふ

うへより陶器を造り出し今猶製造家所ゝゝ多しその山を天長山と号く世俗ゝハ茶碗山といふ茶碗四類を專らゝ製し御両國ハ更ゝ諸國の津浦ゝ多くゝり出せり

延喜式民部省式年料雜器長門國茶碗廿口 径各五寸 又長門國より進る物の中ゝ茶碗廿口とあり茶碗め

ゝ玉勝間ゝ見えゝり

防長名所歌記

埴田驛 ハ椿郷の内ゝあり萩城より一里ゝ

ゝ艮の方ゝ位り

延喜式印本

埴田ゝあるハ傳寫の誤りゝり埴田を今國中ゝ蟹田治田の字を用ふ（所ゝ小郡村といふ里 ゝ小郡の字を用ふ）此村の土地埴ゝり故ゝ埴田の名あるゝや海のゝりゝまゝ一村位り

雅樂峡川

兵部省式

長門埴田

丹波日記

同しき 岡浦小畑とゝ[illegible]へ唐船のつきてあるとし

を舟人のいちゝ語りをれハさしハ見物せんとてくるかゝ

舟をよせてあるしこゝめて

我もさゝ浦はひて漕くめ産土舟のとしし 漕に 出舟

雅楽殿川 前小畑うあり茶店の前を流る川をゝ昔

の川をゝハ今才一南の方とゝゝ[illegible]の北うあり名ん

白山社の神主矢次雅楽とゝゝる人毎朝此川ゝきうて水打灌き拍柏一て白山の社ゝ詣て祝とそ故ゝ此名の歌ゝとゝゝ 矢次雅楽研とゝゝて今毎月津長谷山ゝあり又雷町博原町ゝ人何某とゝゝる者矢次氏の祭斎ゝとゝ

ひ導ゝる

ゝの所ゝ

疫神

荒神 相社 岡丹桂遥ゝ南の方耕田を開て山の傍ゝ

ゝう里氏福老荒神と稱も 雷方を福老村とゝゝ又荒老荒神とゝゝ[illegible]

ゝ人の祭ゝ 祭神祥ゝ[illegible]ゝ氏採礼ゝ公共祭始を考ゝ天文年間

復採氏再興 今御井藏村の者 此氏の祭斎あり 于時明和年間斎改時係歌

採ゝと書記ゝ

白山社

神前右の石燈籠銘に曰

野興後根重以宇盛道天文廿四
乙卯至宝暦四甲戌二月貳百年

奉寄進 疫神 荒神　諸願成就

盛道六代孫　後根長左衛門盛武
同　九郎右衛門盛勝

白山權現社　同所社邊の左にあり社司神田氏奉祀す

祭神 伊弉諾尊 伊弉冊尊 大巳貴命以上三座 相傳ふ弘仁年間左大臣藤原朝臣冬嗣公長門國阿武郡埴田邑領封せられしころ加州白山より勧請あり〜といひ傳へり其證文として今當社神躰の傍に秘〜尊敬なり〜奉る

冬嗣公家臣人の流 嗣ふと制府武某摩

東武某の所家有て當時に往昔す

社寶　足利尊氏の矢　松倉伊賀守の矢　矢次雅樂の院うとを存す 或人曰家社にはる大蛇あるりしを秀元公島原所時の所神神太鼓に所用れあるりしとなり

勝屋權現社舊地　茶臼山の下田中にあり〜繁茂〜さる叢の中に礎石の苔むしころあり此の邊ナへて勝屋とゝ〜是舊地なり古記に曰貞觀年中勝屋某小畑浦にて神体を拾得て勧請せりと〜 神体に權現と云ふ

妙見社　中小畑烟硝藏の上の山にあり石祠に安永年中と記す

七觀音

月峰山永照寺　同所踊場浦町の後にあり一向宗にして京師本願寺に隔すれば本尊に阿弥陀を安置す開山は西聯と云へり相傳へ永正年間筑州芦屋の里乃百姓吉見家に由縁あるにを以て新に来り先指月山（今所城山と云）麓四本松今浦と云ひし所に住居せりといへり此時の頃より仏門の心ありて終に雑髪して一宇の伽藍を結ひ即て當地に移りて法名寺と云へり一宇を建立せり後長福寺と改む今當地を今浦と云へり四本松より来れる舊名にちなんでしるべし近く京都本願寺より今

乃寺号を賜はりしと云へり

浦小畑観音堂　浦町の中程山に傍ひてあり本尊十一面観世音并に秘七観音の一にして第五番目にて相傳へ今浦の漁父京にしてこの霊夢の告あるにて海中にこれを尊像を求め得たりて妙雲院に安置せりと云へり後事係のこれ道心者西雲と云へる者こゝに来り一精舎を建立せんとして日毎に市中に出て一粒銭をもひ終に他力を以てこれを——十九年の春當所に一宇を建立せんと欲の尊像を安置せりと云へ

越ノ渡

まゝ境内ニハ重櫻の一株を我の春時鶯捲らうて尤
壯觀ゝう

越濱明神社　奈古屋島御茶郎の池ニ臨こゝう

祭神ハ藝州厳島宮ニ同して市杵島姫を祀り春ゝ祭
祀ハ七月十七日ゝゝ此夜神輿御舟ニ乘しもい沖中を
廻りて先堀止御門ニゝう御船をゝゝ止めて神
樂の式あり夫ゝう儀逆傳ひ菊ゝ濱御祈所ニ於て神
樂舞を執行す御舟ニハ管絃の御舟を一ゝうて次ゝハ
みこゝゝきの舟或ハ飾り立ゝう舟或ハ鉄ゝ如く前後

左右ニ連り萬燈白畫ゝうも明〻舟見羣集して夜
遂夜〻とゝみゝゝう或ハ賽錢取の屋ゝゝハ物賣ふる
の〻聞う相半して浪風ゝうも耳ざハ近う置し是も亦
賑ハへる風情ゝるへ〻　世俗ここの祭を御管絃と云

緣起ニ曰當神ハ昔元龍公御信心の御神ニて數度
御出馬の御利益ゝありゝゝる〻綱廣公御夢ふゝうて正
寶九年藝州ゝう御勸請ゝ〻王ひゝる所ゝり
古ゝ吉左衛門と云ゝる者夢みゝゝ此山上ニ一の大き龍ゝ
池ゝり其水底ニ珠玉三ゝゝあり是をゝうて明神社瑞津

の宮恵比須社へ納め奉るべしと神告を得たり即て
かめ所よりさがして探り得て三社へ納め奉りとつらつ
此玉いと奇偉なるものにして尊しとつたへ傳ふ 此島にしてへ古
居せしとかいふ

長越濱在那城北十餘里為北海上某一住山水也而長主自古置
組公組組數千箇城中人不問口碑所傳此地長主之園圃而
與民同其樂者也庚申春予有周州之行歸程取道於長城因
與二三子同逍遊上為客路一日乙巳嗚呼長予父母之國也
而初予見此濱也生涯三歲之時矣乃今齡已五十有三重遊
焉則可無感乎因乃辛然賦此詩 無隱禪師

夜生未辨秋研裏便覺把物逢此地而今猶覺可歎霜重遊悠如夢
寒沙頭遠家依然在池邊花木皆長大柏手野依未食果熟視吾類
知有往吾考吾祖業吾父母兄弟悉各朝三暮四謹勿怠草先
多少跡前後更數裏掌沙柴岡古斷往跡橋彷徨南望月城長城古 西望月城
山峯翠北眺樂浪水邪花越王樓臺安在哉畫鄰英雄安不國歌文
鈴勿逆懷舊風情每自來而來

八江萩名所圖画六之巻終

0
2

萩市立萩図書館
111524286